

桐鈴凛々

第81号

平成24年1月15日発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩 秋子

南魚沼市浦佐 5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail

suzukake@rose.ocn.ne.jp

http://www17.ocn.ne.jp

~/tourei/

お世話になりました

ケアハウス鈴懸

前施設長

広田セツ子



一二月末で退職させていた
だきました。

平成一六年にグループホーム「桐の花」と夢草堂が開設された時に管理者として赴任した星野さんが「お年寄りが、いろいろな施設を短期間で移動させられる例をたくさん見てきた。桐の花がお年寄りにとって最後まで安心して暮らせる場所になりたい。」と挨拶をされました。これを聞いて感動し、私もいつか自分の言葉でこのようなことが言えるようになるのだろうか

自問したことを覚えています。

その頃の私は、鈴懸で当直の手伝いをしたり、時には、厨房のピンチヒッターで入居者の食事を作り、一時期は、凛々の編集、発行をさせてもらったりしていました。桐鈴会の夏祭りには、家族で遊びに来て、のんきにしていたのが、一九年の五月に鈴懸の施設長になってしまいました。鈴懸で働くということ、どの職種であつても入居者のために働くということ、お年寄りのお世話は一人では完結できません。迷うことばかり



いつもにこやか広田さん

で、どうしていいかわからないことばかり。そんな時はいつも、「明日皆に相談しよう」と思って明日を待ちました。その明日になって、皆で話をしているうちに、一人で迷っていたことが嘘のように一番いい方法が決まりました。だから、本当に楽しかった。何をみても、誰と話しても楽しかった。福祉のことも、介護についても何も知らなかった私の話を職員の皆さんには良く聞いてもらい、相談にのっていただきました。事務所の皆さん、厨房の皆さん、ヘルパーの皆さん、そして桐の花の職員の皆さん、ありがとうございます。

鈴懸の入居者の皆さんも個人的で、生命力に満ちた方ばかり

りであるのは、(手前みそかもしれませんが)鈴懸が自由な空間で、かけがえのない場所であるからだろうと思っています。これからも鈴懸が入居者の皆さんにとって安心して暮らし続けることのできる場所であることを祈っています。

夢草堂で行われた講演会の数々は忘れられないものばかりです。

二二年に石飛幸三氏と仕事のパートナーでもある妻の佐々木静枝さんを招いて「平穩死のすすめ」の演題で講演会がありました。高齢者の終末における漠然とした不安を私の中から取り除いてくれたものでした。氏の著書である「平穩死のすすめ」は日本中で反響を呼び、多くの共感が寄せられました。講演会の後ご夫妻の話を直接聞くことができました。「食べられなくなったらどうしますか」と問い、その問いに対し明快な答えを授けてくださったのでした。

(凛々七四号)

曾田蕭子さん(注)の講演も楽しかった。曾田さんは東京にお住まいで桐鈴会をいつも支援

してくださっています。はじめにマトリョーシカという幾重にも重なっている人形を出して、いつもこのお人形が相談相手になっていとお話になった。中学時代に、高校受験を控えて転校、塔のように積まれた受験参考書を五回読まなければ高校に受からないぞと大人に脅されたときも人形を相談相手に「大人の理屈って変ね」とさりとかわして受験も乗り切ってしまう。おませで、空想家でおしゃべりの赤毛のアンが現実にてきて語りかけているようだった。曾田さんのお話は「こんなに苦労しました。こうして乗り切って生きてきました。」という苦労話はどこにもない。三人の子どもが小学生の時に夫が事故で急死したことを語るときも「皆がさぞ大変だったでしょうと声をかけてくれたけど、(といいながら不思議そうに小首をかしげて)「こういう時は、前を向いて進んでいくしかないでしょう?」と。この時もお人形が現れて「そりゃそうよね」と言っただけに違いない。そういえばうちにもマトリョーシカがいると私

も思いました。

桐鈴会での思い出は尽きませんが、最後に、私に鈴懸で仕事をやる機会を与えてくださった黒岩夫妻に感謝します。黒岩先生には入居者の体調が心配な時は夜中、早朝にも相談させていただきました。理事長の秩子さんには、「入居者を怒らせた。なんとかしてください」と何度も助けていただきました。どんな困難があっても理事長が必ず助けてくれると思うと、安心でした。ありがとうございます。



(注)

曾田さんは桐鈴会ができる時から多額の寄附をいただき、「桐鈴凛々」を毎回お送りしています。夫君が亡くなった時の補償金を、夫君が喜ぶことに使いたいとのこと。女たちが活躍すること何にもまして喜んでいました。曾田さんに桐鈴会を見ていただきたくて、お招きしようとして誘っていたのですが、「四、五人で話し合いたい」と言われ、夢草堂運営委員とほんの少しの方を誘った座談会となったのでした。(黒岩扶子)

施設長に就任して

ケアハウス鈴懸

施設長

林

幸英こうえい



林サンタがやってきた！
(クリスマス忘年会で)

新年あけましておめでとう
ございます。本年も明るく健やかで、つつがなくお過ごしになることを念じております。

私も、おん年六七歳。人間としての定めでしょうか、昨年の一二月一日から、広田前施設長の退職に伴い、縁あって不肖私が後任施設長として働かせてもらっています。本当にありがとうございました。

私は、旧六日町役場に三七年ほど勤めさせていただきましたが、福祉関係の仕事に携わったことがありませんでした。これも何かの縁としか言いようがありません。

りません。

ケアハウス鈴懸に勤めることになってよかったことは、新しい勉強ができることと、今までに出会ったことがない多くの人達と出会えることです。

一カ月余り鈴懸の入居者に接してありがたく思っていることは、「若さ」をもらっていることと、わからないところを指導していただけることです。先人達の思いやりの深さを実感しています。

ケアハウス鈴懸は「終の住み家」を目指している施設であることは、以前から聞いていました。多分、全国的に類のない老人福祉施設ではないかと思っております。本当に感嘆です。このことが鈴懸の顔であり「セールスポイント」になっていることは、誰の目から見ても確かなことであろうと思えます。何よりも申込待機者の多さが証明しています。

しかし、立派な理念や運営方針だけでは、この人気を維持・継続していくことはできないと思っております。理念とこの施設に直接携わり、サービスを提供

している「人」とが連結し、一体となって始めて具現化することだと思えます。この「人」とは「終の住み家」をよく理解している職員であり、入居者へのサービス提供者の働き如何にかかっていると見ています。

今まで私の目から見て、鈴懸の職員の家庭的なサービスと献身的な仕事ぶりは、ケアハウス鈴懸にとって他の施設より大きな「武器」であり「財産」になるものと、新米施設長として安心を感じていると同時に「終の住み家」を標榜する鈴懸にとっては重要なキーポイントだと心掛けていきたいと思えます。

施設を継続、運営していくためには、入居者と職員の信頼関係が大切だ：という思いから、入居者の居室訪問をお願いしたところですが、**はか**がいついていません。申し訳なく思っています。このことも早く進めていきたいと思っています。私もそれなりに歳をとっています。まだまだ経験不足で広田施設長のようにはいきませんので、入居者の皆様をはじめ、職員の方達

にはご迷惑をおかけすることと思えますが、私もできる限り努力いたしますので、叱咤激励のほどよろしくお願いいたします。

私のプロフィール

- 昭和十九年三月
五十沢村津久野に生まれる。
- 昭和三十七年三月
県立長岡農業高等学校卒業。
- 昭和四〇年七月から
平成一四年三月まで
六日町役場勤務。
- 平成一四年三月から
平成二一年三月まで
六日町商工会勤務
(事務局長)

桐鈴川柳

- ◆つかみ取り
濡れ手に粟で 欲の技
- ◆菜箸で
采配ふるう 鍋奉行
- ◆うさぎ去り
天より来たる 龍光る
(わからんばい)

広田ご夫妻に感謝！

ケアハウス鈴懸 入居者

五十嵐悦子

一昨年の検診で乳がんを宣告され落ち込んでいた私に、「心配ないわよ。主人に診てもらったら」と、優しく声を掛けて下さり救われましたので、諸先輩をさておき僭越と存じましたが、お礼の言葉を述べさせていただきます。

クラス会の温泉場を見た、おっぱいを抉り取られた友人。日本の惨酷な手術に不安が広がりました。フランスでは抉り取らず乳首はそのまま、おっぱいがぺちゃんこになるだけです。それならペチャパイの私に好都合、フランス式でお願いしますと申しましたら、ラッキーな事に広田先生は県下で初めて温存術を手がけた権威でした。

傷口五センチのテスト手術では、不安の中、大好きな二胡の調べを聞きながら、「悦ちゃんがんばれ」の声に励まされ痛くなく終了しました。入院しな

ったので皆さん誰も気づきませんでした。

精密検査の結果、タチの悪い硬ガンと判明。広範囲手術入院になりました。今度は全身麻酔で気がついたら終わっていました。入院中、朝昼晩と見回って下さり、患者には最高の先生でした。乳首もそのまま無惨な姿にならず感謝感謝です。

そんなご主人様のお世話をしながらケアハウス施設長として、入居者三〇名に目配り、気配り、心配りとさぞかし大変だったと思います。

私は電磁波障害で東京より浦佐に来て、まずぐっすり寝れた事、おいしい空気を存分に吸い、八色の森公園を散歩でき悦んでいましたら、施設長よりベテラン編集委員の後をと話をいただき、多忙の私には務まりませんとお断りしましたが、やる方が居りませんとの事で、お世話になっいて断ったらバチが当るかなと、一年間の条件付きで引き受けまだ続いています。

入居時にミス〇〇の面影があった方も、〇〇長さんも長い間に皺くちや婆やボケ爺に、遅か

れ早かれなつて行きます。編集委員をやつて気付かせていただいた事、昔を思い出す回想法でボケの進行度がくい止められ、元に戻る事を発見し全員に書いていただく事にしました。書く事の苦手な私も回想法でボケを遅らせる事が出来たかな…と施設長に感謝しております。

ボケ予防の一番は、今までやったことのない事に挑戦する事と、始めたマージャンでは、何回かお手合わせいただきとても楽しかったです。これからもいろいろ御指導下さいませ。

お孫さんの面倒を見られるのも大事ですが、人命救助に活躍される御主人様を大切にされ、悔いのない人生を送られます事をお祈りし、私の挨拶と致します。長い間本当にありがとうございました。



桐鈴川柳

◆七福神

我が家の前で「廻れ右」

◆お年玉 今年価値下げ

小切手で

(薫風)

施設長の交代

桐鈴会理事長 黒岩扶子

去年の三月のことです。広田セツ子さんから、次女の愛さんのところで二人目が生まれることになったので、退職したい、というショックな言葉！「三年前に生まれた時には、もう一人のおばあちゃんがある、三年間は私が見ます」と言ってくれて、この三月に三歳になりました。だからその方は、四月から勤めを始めるので、私が見ることになります。

慰留しても、セツ子さんの心は変わりません。一〇月が予定なので、一〇月に辞めたい。私はそれから後任探しをしました。一〇月になってやつと引き受けるという方が現れて、十一月にっばい引き継ぎをして一二月に交代したのでした。

後任の林幸英さんを紹介してくださいましたのは、初代理事長の大久保勝彦さん。この方は実の人を見る目が厳しい方なので、

彼の紹介とあつたら、一〇〇%安心、と思つています。これまで施設長は女性と決まっていた鈴懸でしたが、初めての男性。期待の声もあります。ご本人の文章にもあるように、皆さんのお力で盛り立てていってほしいと思います。

一〇月に私は新潟日報の「声」欄に「専業主婦の潜在能力」という投稿をしました。五六歳まで専業主婦だった広田セツ子さんが、いかに鈴懸で潜在能力を発揮したのかという内容です。気負うことなく、何事が起こってもあわてず、さりと解決してしまふ類まれな能力の所持者でした。次女の愛さんは、東京在住。そちらに出向くとき以外は、六日町に住んでいるので、今年度中に完成予定の喫茶カフェへの取り組みに力を貸していただけることになっています。すでに彼女は、元施設長だった森山里子さんに「一緒にしよう」と呼びかけてくれて、森山里子さんが、設計に取り掛かってくれました。隣の畑に建てる障がい者の日中活動の場として、八色の森公園に遊びに来る親子連

赤澤珠さんご逝去

ケアハウス鈴懸入居者の赤澤珠さんが暮れの一二月三〇日、一九時に亡くなりました。

静かで穏やかな死でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

(次号で詳しくお伝えします)



れがくつろげる喫茶カフェのことです。その隣に作る重度の人たちも住むケアホームの設計も彼女の手によって、できています。

やめたとはいえ、このようにしてかわり続けてくれる広田さん、森山さんに深く感謝しています。

桐鈴川柳

◆子等の来て

一刻(ヒトトキ) 嬉し

雪の里

◆小枝の雪も

振り落とされて フルの行く

(田んぼの蛙)

絆 新年明けましておめでとうございます



ケアハウス鈴懸（その1）

絆 本年もどうぞよろしくお願いたします



ケアハウス鈴懸（その2）



グループホーム桐の花

後列右の二人はタジキスタン人の夫婦。夫は国際大学の学生、妻はお屋にお手伝いして下さっています。（妻の名前はシャフノーズ。通称「ノーズ」といいます）



グループホームひまわり



新潟県南魚沼市浦佐5142の1
桐鈴会（入居者・職員一同）

浦佐認定子ども園

はな組の子どもたち

一歳児担当 梅田啓子



浦佐認定子ども園の一歳児、はな組の活動の様子を紹介しました。四月スタート時は一五名でしたが、現在は二〇名（男の子八名、女の子一二名）です。

四月に比べ、落ちついてきたことと月齢差による成長を考慮し、月齢グループを作り、グループ活動を取り入れた保育も行っていきます。



夏のひととき、擦り傷をものともせずー！

八月は、園庭に植えた芝生が根付くと同時に、どのクラスよりも先に、園庭に出て遊びました。園庭には、芝の小さな山と土の大きな山があります。その石が混じる大きな山をオムツをつけた一歳児がものともせず、次々とお腹に擦り傷をつくりながらも、自らてっぺんを目指している必死な想像外の姿に感動しました。

一月には、三グループに分かれて、浦佐の菊まつりへ出かけてきました。一回目に出かけた月齢の低いグループは、全員バギーに乗っていきました。二回目、三回目のグループも、距離があるのでバギーに乗っていく予定でしたが、自分から「歩いて行く」という子が何人かいて、片道歩いた子や往復歩いた子もいます。片道一・五km、往復で三km歩いたことになりました。私たち保育士も本当にびっくりしました。秋に、たくさん散歩に出かけ体力がついたのはな組の子どもたちは、「歩く力」もついているようです。そして、それぞれグループごとで全く違うエピソードやドラマがありました。「おめえさん、若いのに六人も

子どもがいて大変だな。よく六人も産んだな。」子どもたちの年齢を聞かれたので、「一歳と二歳です」と答えると、「おく九五も違うがか？」と言われ、保育士の方は笑いをこらえるのに必死でした。分かれて活動するこ



浦佐の普光寺の菊まつり

の目の前で、小麦粉・油・塩の水を大きなボールに入れこねて一つに丸め、出来上がる様子から見せました。大きなボールを見たときから、いつもと違う関心を示した子どもたちでした。小麦粉粘土を各テーブルに分け、こねたり丸めたり：保育士の真似をして型抜きする子どもも見られました。ほとんどの子どもたちが一時間近く、席を立つこともなく集中して遊びを続け、その後の片づけ、手洗いの行動にも、一人ひとり、成長の様子を感じ取ることができ、保育士として、幸せなひと時でもありました。チャレンジ精神豊かな好奇心いっぱいのかわいいはな組です。

桐鈴川柳

◇晴れ衣装

霧雲浮かぶ 駒ヶ岳

◇姫御前 車椅子で 赤頭巾

◇萌えいずる

希望の春を 待ち望む

◇御神酒に 追われて三が日

すぎた早さ

◇三が日 楽しく過ぎれば

元の杣あみ

(井口未作)

安心堂ほほえみ観音

萌気会理事長 黒岩卓夫

桐鈴会によく、納骨堂に代る「お厨子」ができた。お厨子には木喰像にあやかった木造の観音様が祀られた。

人は死んだらどうなるのか。これは誰にもわからないと思う。無になると答える人が多いが、無とはいったいどういうことなのか。これもむづかしい。

そこで宗教ではどうなっているのか。天国、地獄、極楽、浄土や、生れかわると輪廻を説く宗派もある。いずれにせよ「あの世」に行くのである。

こうした話ともあれ、死そのものが恐ろしいのだと思う。だから普段はなるべく考えない。そして見ない、聞かないとなってしまう。

数年前「おくり人」という映画が多くの人たちの心を打った。これは青木新門さんの著書「納棺夫日記」をもとに映画化したものだ。おくり人はおそらく誰もがしたくない仕事を、単なる

仕事とは思えないほど、心を込めて丁寧に清め化粧して遺族や参列者に提供したのだ。

観衆はこわいもの見たくないの心境から、おくり人によって自然に暖かい気持ちになり、自分も死者をおくれる、あるいは自分も安心しておくってもらえるのでは、の心境に変わったのではないだろうか。



安心堂ほほえみ観音

青木新門さんはその日記の中で、『自分と同じ体験をし、自分より少し前を歩く人がいればよい。これは老いて死を迎える場合も、癌などで亡くなる場合もそうだと思う。私は前に進み過ぎていく。親鸞には、少し前を行くよき人（法然）がいた。末期患者には激励は酷で、善意は悲しい。説法も言葉もいらぬ。きれいな青空のような瞳をした、すきとおった風のような人が、

側にいるだけでいい』と書いている。ちなみに青木新門さんは浄土真宗（親鸞）に縁の深い方である。

さて桐鈴会にはお寺造りの夢草堂がある。ここでは何人もの利用者の偲ぶ会や葬儀も執り行なわれた。その都度この桐鈴会で人生の最期を共に暮らしてきた思い出や感謝を語り合っ、心からその死を悼むことができた。

こうした経緯から、この夢草堂のある桐鈴会に納骨堂がほほえみという声があがったのだと思う。その意を受けて理事長を中心に、その実現に奔走したが、いろいろな制約があり、今回の形になった。お骨は旧湯之谷村の東養寺（時宗）の御住職細井心円さんのご好意で預かっていただけることになり、夢草堂には新たに厨子を設置することになった。この観音様に期待することは、掌を合わせる人たちの気持ちや願いをにこやかに受け止めていただきたい。そして青木新門さんの言うように、皆さんの少し前を歩いてほしい。それが安心の根本だと思ふから、

誰しも死ぬということは一

人旅に出る寂しさが大きい。私の友人で医師であり参議院議員であった故今井澄さんは、胃癌で亡くなったが、死を間近にして、「見舞いには来ないでほしい。しかし、寂しいから手紙をほしい」と言っ、在宅で亡くなった。そして自分が生きてきたこと、その長短を問わず、家族や友人たちに認めてもらいたい。できればほめてもらいたいのだ。その人の全てをよく生きたなと認めることができればいいと思う。そうした思いをお互いに生きていく時から観音様に伝えておきたいものだ。

観音様はいつでもどこでも求められれば救いに駆けつける仏様だ。そこから十二面観音とか千手観音が生まれた。それだけ多くの人たちを助けようということだ。

桐鈴会の夢草堂のお厨子にお出でになった仏様を、木喰像のようにほほえんでいるところから、お厨子も一緒に納骨堂に代って「安心堂ほほえみ観音（菩薩）」と名付けたと思う。死ぬときもほほえんで安心できることを願っている。合掌。



スウェーデン七人旅 (その②)

黒岩 扶子

2011. 9. 24～10. 2

・ストックホルム
・イエテボリ



・特別支援学級の生徒たち

生徒たちが待っているからと一〇時になると別の部屋に行きました。生徒たち一〇人ぐらいと先生が五く六人、待っていてくれ、初めに生徒たちが作ったスライドショウ。日本のことがいろいろと調べてあり、富士山や、東日本大震災など、私たちが驚かせ、かつ喜ばせる質問がたくさんありました。女生徒一人と男生徒四人でした。後でこの五人が特殊学級の生徒だと知ってびっくりでした。私たちからの質問にも答えてくれ、「学校に行きたくない時どうする？」「がまんしていく」などと答えます。「日本では宗教はどのようになっていきますか？」などという難しい質問があつて、たじた

じさせられました。日本人がくるということを最大限利用していこうという先生たちの意欲が伝わってきました。

「白い家」という重度の子供たちの家がありました。ここでは、小学校のころ嫌な思いをしてきて、ここにきて明るくなつたという中二の男生徒が、いろいろと説明してくれました。その説明があんまりうまいので、どこが悪いのか？といぶかつていたのですが、勉強している机の上を見せてくれたら、算数が不得意らしいことがわかりました。この部屋は、アシスタントなど大人が、子どもと同じ数だけいて、そのおかげで「平穩」が成り立っているとのことでした。実際に私たちが帰りのバスを待っている間に、ここにいた子どもが、物を振り回して地面にたたきつけたりしていましたから、あの時ちゃんとしてわかっていたのは、隣に大人がいたからなんだと、痛く納得できたのでした。

「スタジオ」という部屋に行つたのは、もうお昼時間になつたころでした。人が来るのを喜ばない生徒たちが多いのでしよ

岸本祐有乃&城内中 サクスコンサート

昨年桐鈴会12周年のコンサートで大活躍してくださった関雅美先生と城内中学の吹奏楽部の皆さんへの感謝を込めたコンサートです。

岸本さんもすぐに「私も行く！」と言ってくださって、直ちに決まり！

- ◆ 日時 2月19日(日)
- ◆ 開場 午後1時
- ◆ 開演 午後2時
- ◆ 場所 夢草堂



- ◆ 演奏 城内中学吹奏楽部
- ◆ 指揮 岸本祐有乃
- ◆ 曲目 「We are the world」
「手紙」、「サザエさん」
行進曲「ワシントンポスト」
「士官候補生」 他

う。担当の先生が、よそに連れ出しているとのこと。部屋を見ただけで、私たちも食堂に行つて、生徒たちと同じ昼食をいただきながら、質疑応答をして、また、一時過ぎまでいろいろな話を聞かせていただきました。朝の八時三〇分からですから、長時間、校長と、市の部長さんが付き合ってくださつたことになりません。この学校では、すべての生徒が、アップルのコンピュータを一台ずつ持っています。家に持ち帰ってもいいとの

こと。今年そのようになったそうです。

ムーンダール市は、昔ストリートレードという大きな施設があったために、障がい者と付き合うノウハウが蓄積しているのだと、こんなことができるのだと部長さんがおっしゃっていました。翌日の見学場所では、さらに驚かされました。

(桐鈴凜々第八〇号の続き)

ちづ子の部屋



今回は
「北村サトミさん」です。

北村さんは、鈴懸のはじめからの入居者で、もはや一〇人になってしまった方々のうちの一人です。リュウマチで不自由な生活をしておられます。

「一九歳の時から、調理師として働いてきました。二三歳から九年間は、上野の日本食堂で働きました。それから大宮のスタンド街で、定年まで働きました。途中三〇歳の時に結核で二年休んだことがあります。その時に肺の手術をしたので、それから体の具合がよくなりました。定年後、甥夫婦が苗場で旅館をするというので、私の調理師の免許が使えるから戻ってきてそこで働きました。」

「厨房で働いていた方として、
「この食事はどうですか?」
「作るのは大変だったから、

この人たちも大変だろうと思いますよ。ここはいい料理をやりますよ。もう自分で作るのはいやだと思つてここに入つてきました。」

「お友達は?」

「亡くなっちゃったのです。星キクさんが、よく面倒を見てくれました。風呂に入つても、洗濯も手伝つてくれて、何でもよくしてくれたのに、キクさんのことは何もしてあげられなかった。深田さんも明るい人で、元気づけられました」

「珍しいお花を育てたのです
つて?」



北村さんのクジャクサボテン

「ここに入つてくるときに、持つてきました。クジャクサボテンと言ひ、大きな赤い花が咲きます。六日町のアパートにいた時に、大家さんが、葉っぱをひとひらくれて、それをさしておいたら大きくなったのです。」

その大家さんもその妻ももう亡くなつてしまいました。毎年大きな赤い花を咲かせて、楽しんでくれました。でも、花の数がだんだん少なくなつて、今年には体調が悪くて外に出すのが遅くなつて、一個も咲かなかつた。いつもは四、五月に外に出していたのです。」

「いつも抱いている猫のミーちゃんはいつからここにいますか?」

「ここに入つてきてからですけど、湯沢に行つたら、『死んだ猫』がたたくさん売られていたんです。それを買つてきて、かわいがつていたら、ある時目がぱつちりとあいたのです。それからかわいがつていふのです。」「この子は、食べ物も食べないし、うんちもしないから、手がかからなくていい子なんですよ」と言つていふのこと。素晴らしおペットですね。」

桐鈴川柳

◆貧高貴賤

分けへだてなく 肩の雪

◆希望とも

失意とも聞く 除夜の鐘

◆雪白し餅白し

越後美人の 肌白し(萌芽)

編集後記



年の暮れ「安心堂開眼法要」に参加して「ほほえみ観音菩薩」に心を癒されて帰りました。

「実は、ずっと前から私は観音様に対して、深い思い入れを抱き続けてきたのです。」

妻が亡くなったのは二五年も前でした。まだ若かつたので諦めるのに年月が必要で、誘われるまま数多くの観音霊場巡礼の旅に出ました。西国三十三札所、秩父三十三観音、越後三十八観音等々です。そのおかげで「盤若心経」「延命十句観音経」等は、今では何処でも読誦(暗唱)することが出来るようになりました。

お経に流れる思想は、仏教の基本的な考えを余すところなく伝え、人生とは何かという私達の疑問に「その答え」を導き出すと教えられ、名僧の法話集を次々と買い求めました。が所詮無学の凡人では理解も進まず、今、大半は本棚で埃だらけ。

こんな私を、観音様、どうかお許しください。

(高橋満幸)